

## 第8回岡山市技術研修生帰国

洛陽市で昨年4月から一年間の中国語研修を終え、元気に帰国された第8回岡山市技術研修生の3名の方に、洛陽での生活や交流の思い出を綴っていただきました。

### 児 子 睦 美

共に笑い、共に怒り、共に悲しみ、共に楽しむ。日本人同士ならば自然と伝わってくる感情も、うまく自分の気持ちが伝えられないところは、相手が違う言葉で話す人だというだけで、お互いわかり合えないのではないだろうかという不安をいつも抱いていました。

考えてみれば、同じ人間なのだから、自分と同じ感情を持っていて何ら不思議はないのだけれども、あらためて、中国での生活の中で、日常茶飯事に起こる小さな事柄からでも、実際に喜び合えたというのは新たな驚きでした。

中国の人との交流はこういった新たな発見を与えてくれただけでなく国際交流の本当の意味をも教えてくれました。国籍の違い、文化の違い、言葉の障害、こういったことはあまり大きな問題ではありません。相手を恐がることなく、よりよく理解しようとする、それこそが本当に大切なのだと思います。

### 濱 本 明 子

私が初めて中国に来たのは、1999年夏。二週間という短い間ではありましたが、日本社会に慣れきった私には、思いもよらない出来事ばかり。——一体中国ってどんな国なんだろう？—これが私の中国との出会いでした。

あれから一年半、私の中国に対する思いはいまだに変わりません。現地の人々と触れ合い、彼らの考え方に触れるごとに、好奇心は強まるばかり。もっと知りたい、理解しあいたい—私にとって、知れば知るほど気になる国、それが中国です。

帰国後は、自分が中国生活の中で見、感じた事を多くの人に伝えるために、様々な活動に積極的に参加していこうと思っています。また、中国での生活を通して自分の母国、日本に対する関心もより強くなりました。まもなく研修を終えようとしている今、「帰国後も自分自身が友好の架け橋でありつづけること」、これが私の目標です。これからは中国を日本の人たちに紹介すると同時に、日本という国を多くの外国人の方々を紹介していけたらと思っています。

### 和 仁 久 見 子

「熱い心」。

私が、洛陽で・旅先で感じた「中国」を表現する言葉は、これ以外に考えられません。

中国での生活に対して期待と不安を抱いていた私たちを、空港で「私の子供達！！」と言って迎えてくださった先生方に始まり、願いが叶うという朝陽を見に無謀にも一人で山に登った私に、寒いだろうからと自分達が借りた1枚しかないコートを掛けてくれた人たち、帰国が近づいたと告げるとその場で仕事を休んで時間を作ってくれた友人。彼らに社交辞令はなく、すべて行動で好意を示してくれました。

「圧倒される…」と言ってもいいでしょう。「遠慮」してしまう「日本朋友（友人）」に思いつく限りの好意を示してくれるのです。その熱意に慣れない人がいるかもしれません。けれども私にとっては、それこそが、どんなにきれいな景色よりも心に残った「中国」でした。

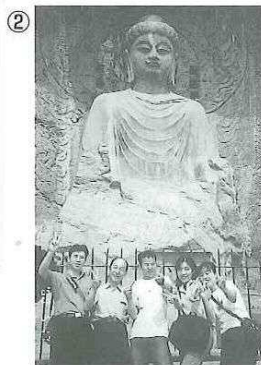
#### ～洛陽での思い出～

写真①：洛陽工学院にて先生方と  
〔濱本さん（左端）、兒子さん（左から2人目）、  
和仁さん（右端）〕

写真②：昨年世界遺産に登録された龍門石窟にて

写真③：洛陽工学院での授業風景

写真④：友人宅にて



## 第12回洛陽市技術研修生来岡

第12回洛陽市技術研修生の3名が昨年10月と11月に来岡され、受入先である岡山理科大学でそれぞれの専門分野の研修を受けています。また、国際交流イベント等にも積極的に参加され、市民との交流を図っています。



氏名 陳波(ちん は)  
研修先 岡山理科大学工学部機械工学科  
研究分野 鋳型の設計及び製造の研究  
職業 洛陽大学機械工学部副主任 助教授



氏名 劉躍敏(りゅう やくびん)  
研修先 岡山理科大学工学部機械工学科  
研究分野 ロボットに関する研究、人工知能システムへの適用に関する研究、ニューラルネットワーク、過程制御  
職業 洛陽工学院電気工学部副主任 助教授



氏名 黄金亮(こう きんりょう)  
研修先 岡山理科大学工学部機械工学科  
研究分野 非晶とナノストラクチャー軟磁合金の開発と応用、高性能集積回路ワードフレーム用銅合金の開発、新型永久磁石体の表面処理新技術  
職業 洛陽工学院材料工学部 教授

## 第9回岡山市技術研修生 洛陽市へ派遣

応募者8名(女性5名、男性3名)の中から選ばれた第9回岡山市技術研修生の2名が、今年4月洛陽市へ出発しました。2名は、一年間洛陽市内の洛陽工学院で中国語の語学研修を受けるとともに、岡山市からの親善大使として洛陽市民との交流を深めていただきます。体に気を付けて頑張ってください！



岸本 京子  
(元岡山外語学院日本語科非常勤講師)

今回、念願が叶って中国へ行けることになり、とてもうれしいです。出発までに岡山・洛陽両市の友好の歴史を再認識し、洛陽では現地の人々と交流を深めたいです。言葉を学びながら、その背景にある中国の文化や中国人の考え方に触れ、それらの長所を学ぼうと思っています。機会があれば、日本の習慣や言葉を紹介し、日本に興味を持ってもらえるように努めていきたいです。



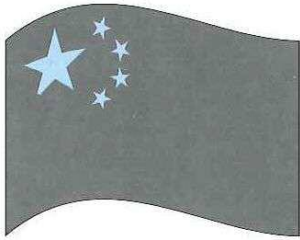
渡邊 伸也  
(岡山大学文学部在学)

今回岡山市技術研修生に選んで頂き、本当に光栄に思います。洛陽市に滞在中は、一人っ子政策などによって生じている教育問題について、様々な角度からアプローチをして、積極的に取り組みます。同時に語学学習も真剣に行い、中国の方々との交流を持ち、岡山市と洛陽市との親善大使の役目を果たすことができれば、と思います。帰国後はそれら自分の体験したことを、岡山市の皆様の前で発表したいと思っています。

# 第7回岡山市子供海外派遣研修

今回の研修は、中国・洛陽市、韓国・富川市、カナダ・バンクーバー市の3都市に岡山市内の中学2年生と3年生を派遣しました。

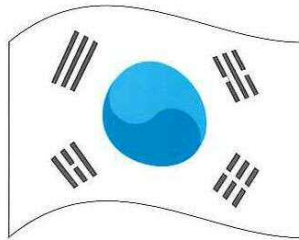
4回行われた事前研修会にて、ホームステイのマナーや簡単な会話の指導を受けた生徒達は、派遣先で一般家庭にホームステイし、現地の学校訪問や各地の視察など学習と交流を深め、異文化に触れる貴重な機会となりました。



派遣先：洛陽市（中国）  
派遣人数：16名  
派遣期間：7月28日～8月10日



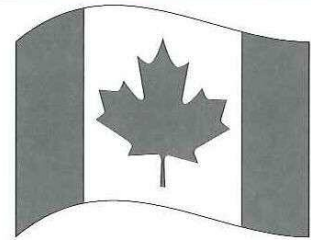
洛陽市外国語学校での出し物披露



派遣先：富川市（韓国）  
派遣人数：14名  
派遣期間：7月28日～8月7日



ホストファミリーとの対面式



派遣先：バンクーバー市（カナダ）  
派遣人数：15名  
派遣期間：7月26日～8月8日



シアトルからバンクーバーへ



ホストファミリー宅にて



交流会での岡山市の子供たちのリコーダー演奏



スタディーセンターにてテキストを見ながら課題にとりくむ



白馬寺を訪問



青少年連合団体との交流会での富川市の子供の素晴らしい演奏



ホストファミリーの子供たちに折り紙を教える



ホストファミリーとの最後のひととき



キムチ作りで取材攻撃にあう



ウイスターの森にてガイドさんに森の話をきく

## 富川市代表団来日

岡山市と大韓民国富川市は、兼ねてから「岡山桃太郎まつり」を通じて民間交流を続けており、また、平成11年9月には岡山市日韓議員連盟と富川市韓日議員連盟が姉妹結縁を結びました。このようなことから平成11年11月、コスタリカ共和国サンホセ市を姉妹都市締結30周年記念事業で訪問した帰路、萩原岡山市長が富川市を訪れました。

この度、答礼として、昨年4月14日から18日まで、元 惠榮 富川市長を団長とする「富川市代表団」一行7名が来岡し、岡山市長表敬訪問並びに今後の交流事業について協議を行いました。



岡山市役所玄関にて職員の出迎えを受ける  
(元 市長 (左)、安 市議会議長 (右))



岡山市長を表敬訪問  
職員相互派遣協定を締結



歓迎レセプション  
(於：岡山東急ホテル)



西川緑道公園散策



岡山桃太郎まつりのテープカットに  
参加する元 市長 (中央)

## 萩原岡山市長 韓国富川市訪問

昨年4月28日から5月1日まで、萩原誠司岡山市長が、先端産業等の視察並びに今後の文化交流等の協議のため富川市を訪問されました。また、「桃の里芸術祭」へ参加され、富川市民との交流を深めて来られました。



富川市議会表敬訪問



富川市主催歓迎会



桃の里芸術祭開会式出席

# 岡山市・富川市職員相互派遣

平成12年4月14日に韓国富川市長が来岡された際に、両市の友好の促進と発展を目的として締結した職員相互派遣協定に基づき、この度、第1回目の交換職員を岡山市・富川市各1名ずつ相互派遣しました。

## 岡山市派遣職員

氏名 富山 寛治 (とみやま かんじ)  
 所属 岡山市環境事業局施設部岡南環境センター  
 所長補佐  
 派遣期間 平成12年11月1日～平成13年1月29日  
 研修分野 富川市の行政全般

## 富川市派遣職員

氏名 金 洪悦 (きむ ほんよる)  
 所属 富川市素砂区庁社会福祉  
 (青少年健全育成指導)  
 受入期間 平成12年11月1日～平成13年1月29日  
 研修分野 岡山市の社会福祉制度

## 金 洪悦

2000年11月1日家族と別れて日本で生活をしたのが、いつのまにか3ヶ月になりました。  
 本当に時間がはやいのを実感しました。

日本に来る前、言語や外国生活について多少心配しましたが、やはり日本人の親切さとやさしい心のおかげで、不自由のない生活をする事ができました。特に私の家族が岡山市にきたとき、お正月にもかかわらず国際課の職員が岡山空港に出迎えしてくださり、また、お正月に家族を課長補佐のお宅に招待して下さるなど、さまざまな配慮について心から感謝いたします。

苦勞したことをいえば、家族と離れて生活することだけで、その他にたいへんなことはありませんでした。

日本(岡山市)の社会福祉全般にわたって、3ヶ月のあいだ研修しながらいろんなことを感じましたが、結論から話せば、日本はやはり韓国などの他の国にくらべて、社会福祉の先進国だということを確信することができました。

中でも特に高齢者と障害者のための社会福祉施設(ふれあいセンター)などは、ほんとうに驚くほど完璧でした。全世界的に高齢化と地球環境の汚染及びさまざまな事故による障害者などが、だんだん増えている今の時点から見ると、韓国をはじめとして、その他の国も日本のような社会福祉の施設の整備をしなければいけないと思います。また、2000年4月から始めた介護保険制度は、現在と将来の社会福祉の焦点を正確に合わせた制度と考えます。

初めて実施する相互派遣研修職員として、私が重責を担って研修に臨んでいます。言語などの問題によって私の役割を十分果たせなかったことについて、ほんとうに申し訳なく思います。

今後、韓国で日本文化の開放及び2002年ワールド・カップ世界大会の共同開催などによって、韓日間の交流は急速に進歩すると思いますので、岡山市と富川市間の交流は韓日間の国際交流に大きな役割を果たすことができると思います。

韓国に帰りましたら、韓日間の国際交流のために頑張ります。

いつも忙しいところ誠心誠意に研修を担当して下さった皆様に、もういちどこの場をかりてお礼を申し上げます。まことにありがとうございます。

### ～研修中の金洪悦さん～

写真①：車椅子に試乗

(於：岡山ふれあいセンター)

写真②：高齢者体験

(於：岡山ふれあいセンター)

写真③：岡山市高齢者福祉課にて高齢者福祉事業概要の説明を受ける

写真④：11月19日の「障害者の日」

街頭啓発パレードに参加

(於：岡山市表町商店街)



# 友好交流サロン

外国語講座は「ハングル講座」(火、土)、「中国語講座」(火)、「シニア英会話教室」(水)、「スペイン語講座」(金)の4か国語で、7コースを設けています。外国人を対象とした「日本語教室」(木)は、受講者のレベルに応じて、7～8クラスの編成で実施しています。

また、毎月1回「国際交流ふれあい講演会」(9月、10月を除く)と外国人を対象とした「日本文化紹介講座」(9月、10月を除く)を開催しました。

## 国際交流ふれあい講演会

岡山でも、現在さまざまな国の人たちが生活しています。これらの人々と垣根をつくことなく交流するためには、お互い理解し合うことが不可欠です。この講演会が、外国のことや外国人を理解するために役立つことを願っています。



4月 ダーツェレン・デルゲルマーさん  
「モンゴルの大草原に生まれ、育った私」



5月 坂口 円さん 白髪 俊恵さん 中藤 季子さん  
「岡山三人娘 洛陽に行く-洛陽ってこんなに身近だったの!？」



6月 イルジ・プロコプさん  
「ヨーロッパの心臓部・チェコ-日本人の知らないヨーロッパ」



7月 イヴァナ・ミハイロヴィッチさん  
「夜明けを待っているユーゴスラヴィア」



熱心に聴く参加者たち



8月 ブイ・ティエン・トウさん  
「ベトナム-戦争から平和へ-そして発展に向けて-」



11月 メーメット・グンデュースさん  
「ヨーロッパとアジア 文化の架け橋トルコ」



珍しい風景写真を見つめる参加者たち



12月 ナジ・アハメッドさん  
「スーダンに平和がくるとき」



1月 カーン・マハムド・ザマンさん  
「世界の平和をめざして-アムダ・活動の日々-」



2月 甄 立学さん  
「私の健康を求めらる道」



3月 ホワイト・トーマスさん(左)  
「教育をとおして見た日本-私はこのように子供を育てたい」